

令和3年度 県立下妻第一高等学校自己評価表

目指す 学校像	校訓に掲げる校規五章及び綱領三徳目を踏まえ、地域社会の要請や生徒の実態に基づき、124年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな校風を確立し、社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成を目指す。 (1) 高い理想と旺盛な探求心を持って学習に精励する生徒を育成する。 (2) 集団の規則を遵守し、確固たる責任感をもって自律的に行動する生徒を育成する。 (3) 心身を鍛練し、強靱不屈の精神をもって、不断に前進する生徒を育成する。 (4) 本校の伝統的精神を生かし、愛校心を持った全人的な生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
地域社会に期待される学校として、文武不岐を実践し、生徒の進路希望の実現を目指している。 授業第一主義の下、高大接続改革や新学習指導要領を見据えた取組を継続しているなか、学校グランドデザインの重点目標「PDCAサイクルを意識して、能動的に学習する態度を育てる」を教職員一同で共有することができた。さらに初めての大学入学共通テストにも対応することができた。 充実期を迎えている光プロジェクトであるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった活動が多かった。本校探究学習の一角を担う重要な活動であるので、7本柱を軸に総合的な探究の時間、各教科の探究活動と連携していきたい。 令和3年度は引き続き、生徒の進路目標実現のため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善への取り組みを継続していく。さらに生徒の自主性・自立性の育成を目標に、能動的に学習する態度を育てるための教育活動を充実させていく必要がある。 来年度の中高一貫教育校開設にむけ、6年間を見据えた教育活動の検討を進めていく。	学力の向上と進路指導の充実 【光プロジェクト】	①授業第一主義のもと、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上（授業改善）を推進し、確かな学力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）をバランス良く育成するため、相互授業参観や各種研修会への参加を積極的に行う。 ②カリキュラム・マネジメントに努めることで、教育課程・学習指導方法・学習評価（観点別評価）方法についての改善を図っていく。また、大学入学共通テストをはじめとする高大接続改革への対応策についても引き続き情報収集・情報共有を行っていく。 ③1人1台端末の活用により、協働的・探究的な学びを推進するとともに、個に応じた柔軟かつ多様な指導を充実させる。さらに、習熟度別授業を取り入れ、理解が不十分な生徒への対策を強化する。 ④引き続き、国公立大学の現役合格者120名以上を目指し、きめ細かな進路指導に努める。さらに東京大学、京都大学などの難関国公立大学（筑波大学を含む）の現役合格者20名以上、医学部医学科の複数名合格を目指す。	B	B
	特別活動の活性化と健全な心身の育成 【光プロジェクト】	⑤ホームルーム活動や学校行事、部活動等への積極的な参加を通して、強い精神力や協調性、自主自律の精神を育む等健全な心身の育成を図る。またキャリア・パスポートの活用を推進し、生徒が自ら活動を振り返り、検証する姿勢を育てる。	B	
		⑥学校行事の改善充実を図り、新たな伝統の継承に努める。	B	
		⑦茨城県および本校の部活動運営方針に則り部活動の活性化を推進し、1年生の部活動加入率90%以上を維持する。	B	
	人間尊重の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立	⑧外部指導者の活用や指導者講習会等への積極的な参加を奨励し、指導力の向上を図り全国大会など県外大会出場を目指す。	A	A
		⑨自律の精神や自己指導能力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。	A	
		⑩規範意識の高揚を図ると共に、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者0名を目指す。	A	
		⑪基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者100名以上を目指す。	A	
	環境美化と心の教育	⑫清掃活動の徹底を図り、環境美化に対して主体的活動ができる態度の養成に努める。	A	A
	広報活動の推進と地域との連携強化 【光プロジェクト】	⑬ホームページや学校パンフレット等を活用し、積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。	A	A
		⑭ヤングティーチャーズ派遣事業や、地域の各種行事、ボランティア活動などへの積極的な参加を通して、地域との連携強化を推進する。	A	
		⑮学校説明会の充実にも努めると共に、小学校・中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。	A	
		⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。	B	
	いじめの未然防止、早期発見、早期解消の確立	⑰授業やHR活動などあらゆる教育活動を通して、他人の痛みを知る能力や自己教育力を高め、いじめを生まない環境を作る。また、生徒のささいな兆候を見逃さないよう、定期的な個別面談を実施し、教職員と相談しやすい関係の構築に努める。	A	A
		⑱生徒の命を守るため、いじめ等の事案に対しては校内連携（複数対応）を図り家庭との連絡を密にする。また、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・外部機関等とも連携をしていく。	A	
		⑲情報モラル教育を推進し、SNS等を通じて行われるいじめの早期発見に努める。	A	
	教職員の健康保持	⑳諸業務の効率化を推進するとともに、教職員の超過勤務の縮減に取り組む。	B	B

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	校訓に掲げる校規五章及び綱領三徳目を踏まえ、地域社会の要請や生徒の実態に基づき、124年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな校風を確立し、社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成 (1) 高い理想と旺盛な探求心を持って学習に精励する生徒 (2) 集団の規則を遵守し、確固たる責任感をもって自律的に行動する生徒 (3) 心身を鍛錬し、強靱不屈の精神をもって、不断に前進する生徒 (4) 本校の伝統的精神を生かし、愛校心を持った全人的な生徒	A	A	授業や光プロジェクト等において、育成を目指す資質・能力をどのように目標設定、実現していくか。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 生徒が能動的学習者となるような、教育内容の充実と指導方法の工夫改善 (2) 生徒一人一人の高いレベルでの進路希望の実現 (3) 各種学校行事及び部活動の充実 (4) 安全教育、健康教育、人権教育、心の教育、主権者教育、道徳教育、情報モラル教育による豊かな人間性の育成	A		学校教育目標を軸としたカリキュラム・マネジメントの充実
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(1) 本学の学びに対する興味関心が旺盛で、深く探究しようとする強い意欲のある生徒 (2) グローバル化する社会の様々な事象に関心があり、英語等の言語習得及び異文化理解に積極的にかかわろうとする生徒 (3) 自分の進路実現に向かい、挫折や失敗を恐れず、主体的に努力を継続することができる生徒 (4) 学校行事、生徒会活動、部活動などにリーダーシップをもって積極的に取り組む意欲のある生徒	B		入学希望者や中学校関係者への情報提供。さらに地域社会との共有。

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		学力の3要素（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）をバランス良く育成するための授業改善を推進する。	生徒一人一人の習熟度に合わせて基礎学力の充実や応用力の養成に努める。①～④	B	B	○指導と評価の一体化 ○一人一台端末（ＩＣＴ）を利用した個別最適な学習と協働学習の推進
			課外・補習等を有効活用し、授業の効果的な補充を行う。①③	B		
			観点別評価を有効活用し、教員が学習評価を通して指導の改善を図るとともに、生徒自らが次の学習に向かえるような取組を推進する。①②③	C		
			生徒の学習意欲を高めるための授業改善に積極的に取り組む。さらに生徒が自己評価等の振り返りを通して自分の学習状況を把握し、主体的に学習に取り組むように導いていく。①②③	B		
			相互授業参観や研修会等への参加を通して、授業力の向上を図る。①～④	B		
			1人1台端末を有効活用していく為にＩＣＴ教育の研修に努める。③	B		
教科	国語	基礎学力の充実・向上を図る。	朝の小テストを実施し、語彙力等の基本的な国語力を身に付けさせ、不十分な生徒には課題等を用いて基礎学力の向上を図る。①	A	A	○アクティブ・ラーニングの視点から、表現や意見を発表する機会を、感染防止も考慮しながら増やしていきたい。
		自主学習の習慣を確立する。	休業日前あるいは長期休業の前に課題を提示したうえ、休み明けに点検し、さらに、確認のテストを実施するなどして家庭学習の習慣を付ける。①②	A		
		生徒の学習意欲を喚起する。	放課後または長期休業中に課外を実施する。3学年においては進路別、学力別を実施し、自分の目標や学力に応じて学習をする機会を増やし、進路実現に向けて努力を促す。①③④	A		
			授業においてアクティブ・ラーニングやＩＣＴの導入により、表現や意見を発表する機会を増やし、学習に対する積極性を育てる。①②③	B		
			読書や小論文作成の時間を設定し、自己を取りまく環境や社会に対する幅広い関心を育て、そこから国語に対する学習意欲をさらに喚起する。①②③④	B		
			地歴公民	基礎学力の充実・向上を図る。		
		計画的な授業指導のもと、教科書をしっかりと計画期限内に終わらせることを心掛ける。①		A		
	大学入試や大学での講義に対応できる学力を身に付けさせる。	平常課外やハイレベル課外、夏季休業中や冬季休業中の課外等を通じて、大学入学共通テストをはじめ、国公立大学の個別試験や私立大学の一般入試に対応できる学力を付けさせる。③④⑤		A		
	生徒の表現力を育成する。	プリントや地図、資料集などを使用し、多くの教材を活用することで、生徒が自ら意欲的に授業に参加できる体制を整える。また、相互授業参観を通してより良いアクティブ・ラーニングを実践し、生徒自ら考える授業を展開する。①②③		B		
	数学	基礎学力の充実・向上を図る。	定期考査の他、各単元終了時に単元テストをこまめに実施する。さらに、学習内容が未定着の者には追試験や課題を実施し、基礎学力の定着を図る。③	A	A	○新1年生の3観点の評価法を確定させる。 ○コロナ禍でグループ学習が難しい中、効果的なアクティブ・ラーニング等の授業をどのように実現していくか。
			定期的に週末課題を課すことで、学習を習慣化させる。また、週末課題の内容から小テストを実施することで、履修内容の定着状況を把握させ、学習法の見直しに繋げる。③	A		
		自主学習の習慣を確立する。	教科書傍用問題集を宿題とし、定期的に確認を行う。①②③	A		
			各単元において、振り返りをさせることで、自分に必要な学習内容を意識させ、自主的学習を促す。①②③	B		
		生徒の学習意欲を喚起する。	課外時間等を利用して、ハイレベルな問題や教科書の内容を超える問題も扱い、深く思考する時間をつくり、応用力の養成と興味関心の喚起を図る。①③	A		
			アクティブ・ラーニングやＩＣＴを導入するなど、授業方法の工夫に努め、魅力のある「わかる授業」を実践する。①②	B		

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	理科	生徒の学習意欲の喚起を図る。	授業方法を研究し、生徒が主体的、対話的に学べるような授業を展開する。 ①②	B	B	○学習指導、学習評価、および、生徒用端末の活用法についての研究を深め、より一層の学習意欲の喚起、および、基礎学力の向上に努める。
			生徒用端末の活用法を研究し、協働的・探究的な学びを促す学習指導に取り組む。 ①②③	B		
			授業に実物に触れる機会を設け、生徒の興味・関心の向上を図る。 ①②	A		
		生徒の基礎学力の向上を図る。	I C Tを活用し、わかりやすい授業を展開する。 ①②	A		
			カリキュラムマネジメントに努め、学習指導および学習評価の改善を図る。 ②	B		
			小テストや課題を適宜活用し、基礎学力の向上を図る。 ①③	A		
	保健体育	基礎学力の充実・向上を図る。	定期的にプリントを配布し、チェックする。スキルテストを定期的に行う。 ①	A	B	○コロナ禍でやれることが限られてしまったので、球技や水泳にはしっかりと取り組んでいきたい。
		自主学習の習慣を確立する。	保健ノートを活用させる。本時の目標と反省を記述させ、課題を明確にさせる。 ①	B		
		生徒の学習意欲を喚起する。	毎時間、授業内容に沿った問題を提議し、自らの考えを記述させる機会を設ける。 ①②	B		
			技術や試合の記録を記述させ、伸び具合を実感させる。 ①	A		
	芸術	基礎学力の充実・向上を図る。	教材内容を精選し、教師自らが授業の中で実際に範を示すことを含め、アクティブ・ラーニングを取り入れながら生徒の感性を刺激し育むことに留意する。 ①②	A	A	○感染予防等に努めながら、実技・意見・感想など、発表の機会をより増やしていきたい。 ○ICTを活用した授業研究の充実。
		生徒の学習意欲を喚起する。	表現する場や意見を発表する機会を増やし、学習に対する積極性を育てる。 ①②	A		
		直に芸術作品に触れる機会を提供し、感性を育む。	I C Tを活用した授業を研究し、協働的・探究的な学びにつながる授業展開をする。 ①③	B		
			教師自ら、芸術作品の研修・研究に努め、授業を通して生徒たちの感性に直接訴えると共に、実際に鑑賞に出かけることを勧め、その情報を提供する。 ①	B		
	英語	基礎学力の充実・向上を図る。	単語集や問題集を活用し毎週小テストを実施する。それにより語彙力や文法力を高める。 ①	A	A	○英語小テストをGoogleで行うこと。 ○授業におけるICTの効果的な活用。 ○大半の生徒は学習習慣が身につけている一方で、なかなか学習習慣を身に着けることができていない生徒達がいる。その生徒達の学習習慣を身に着けさせるよう取り組んでいく。
		自主学習の習慣を確立する。	授業ノートや週末課題の点検等を通して生徒の学習実態を把握し、家庭学習の習慣を付ける。 ①②	B		
		生徒の学習意欲を喚起する。	映画やテレビ、新聞などの「メディアの英語」を活用する。 ①	B		
			英語関係の外部試験の受験を推奨する。またその試験対策指導を教員間で連携を取って行う。 ①②	A		
			ショートスピーチなど、自己表現力を伸ばす指導を取り入れる。指導方法や指導教材、補助資料については学年間の連携を高め共有していく。 ①②	B		
家庭情報	家庭	主体的学習を促すよう授業内容の精選・改善を図る。	体験レポートの実践、ホームプロジェクトの実践を通し、主体的な学習態度を促す。 ①②	A	B	○コロナ禍のため、平常と比べると調理実習などの制限をせざるを得なかったが、次年度は、例年の実習内容に戻せるよう望みたい。
		自立を目指し、生活力の向上を図るための知識や技術を身に付ける。	「主体的・対話的で深い学び」を目指し、授業内容を精選し、アクティブ・ラーニングの授業充実を目指し、学習形態を工夫する。 ①②	B		
			調理実習・被服作品製作実習・その他の体験学習を積極的に取り入れ、家庭生活に必要な知識や技術の習得を図り、実生活に役立てられるようにする。 ①②	B		
	情報	基礎学力の充実・向上を図る。	個に応じた指導を通して、コンピュータ利用の円滑化に努める。 ③	B	B	○新課程「情報Ⅰ」への対応、特にプログラミン指導の研究 ○大学入学共通テストへの対応
		自主学習の習慣を確立する。	他教科における情報利活用と連携し、情報に対する学習意欲を高める。 ①	B		
			自ら情報ネットワークを使って情報の検索・収集を行うことにより、情報処理の方法を習得させる。 ①	B		
		情報モラルを確立する。	安全なインターネットの使い方及び情報モラル指導の充実を図り、ネットトラブルの未然防止に努める。 ⑨	B		

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業・課外の充実を図る。 (授業時間確保を含める。)	授業の開始時刻及び終了時刻の厳守に努める。 ①～④	A	○指導と評価の一体化の推進 ○ICT活用研修の充実 ○学校広報に関するHPの充実
		授業担当者出張・年休等に際しては、授業の振替を徹底する。また、急な変更が生じた場合にも、学年や教科等の協力を得ながら、授業時間の確保に努める。 ①～④	A	
		令和4年度からの教育課程変更がスムーズに進むよう検討を継続していく。 ②④	B	
		補習や課外等を充実させ、学習内容の補充・発展に努める。 ②④	B	
	指導と評価の一体化を図るため、カリキュラム・マネジメントに努める。	学校グランドデザインを意識した話し合いを持つ。 ①～④	B	
		学校評価アンケートを適切に行い、学校の実態を把握する。 ②③⑬	A	
		各教科と連携し、次年度から再整理される「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点評価について検討を進める。 ②	B	
	校内諸データの整理と活用を進める。	学校全体に関わる統計データの収集・管理を的確に行う。 ⑬⑮⑯	B	
		校務支援システムを有効活用し、考査等の処理、指導要録・調査書の作成を効率よく行う。その際はミスが起こらないよう、確認作業の手順等を周知、徹底する。 ⑳	B	
	校内研修の充実を図る。 ICT教育を推進する。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。 ①②⑨⑰	A	
		授業相互参観や研修会への参加を推奨し、アクティブ・ラーニングの導入を始めとする授業方法の充実・改善を推し進める。 ①②③	B	
		1人1台端末導入活用した協働的・探究的な学びを推進するため、校内研修を継続して行う。 ①②③	B	
		ICT機器の整備・管理を組織的に行う。 ③⑳	B	
	奨学金制度等の活用を支援する。	奨学金制度等について、生徒に対して十分な周知を心掛ける。保護者に対しては「Classsi」を利用して周知する。 ⑬	A	
	学校広報活動の充実に努める。	学校説明会・学校公開等については、実施項目・内容・順序等の改善を行い、中学生にわかりやすく、本校の特長が最大限アピールできるように努める。 ⑬⑮	A	
		学校パンフレット等の学外配布資料の内容については、各方面から広く意見を求め、その充実に努める。また、情報発信方法としてホームページの活用を推し進める。 ⑬～⑯	A	
		小学校・中学校・学習塾等への訪問を通じて、学校の広報活動を推進する。 ⑯	B	
生徒指導	基本的生活習慣を確立する。	登校指導及び巡回指導を通して校則の遵守(特に服装)と挨拶の励行を徹底させる。 ⑩	A	○校則(特に服装)について、認識の共有 ○カウンセリング時間の確保
		全職員が共通の認識を持って指導に当たる。 ⑨⑪	A	
	心の教育(規範意識とモラルの向上)を推進する。	高校生さわやかマナーアップ運動を通じて規範意識の向上を呼びかける。 ⑩	B	
		いじめが起こらないように級監、授業担当者を中心に生徒たちの様子を観察し適宜面談等で生徒とふれあう時間を持つ。心のケアのためにスクールカウンセラーの活用も勧める。 ⑱⑲	A	
		携帯安全教室等を通して、情報モラル教育の充実に努める。 ⑲	B	
	交通安全教育を推進する。	バイク・自転車点検を年間行事予定に組み込むと供にバイク通学者実技講習会を実施し、交通安全に努める。 ⑨⑪	A	
		集会等で交通マナーに関して注意し、交通安全を呼びかける。 ⑨⑩	B	
特 活	帰属意識・協調性の涵養に努める。	生徒会を主体とした行事を通して、学校行事の企画・運営に参画し、これを実践する能力を養う。 ⑤⑥	A	○本年度は新型コロナウイルスの影響により、本来の規模での行事を実施することができなかった。しかし、生徒会や各実行委員会の働きにより、制限の中での最大限のことを実施した。行事縮小が2年間続いたので縮小しない内容を次年度に引き繋ぎたい。
		校内等の美化・校内外のボランティア活動を通し、ボランティア精神を育成する。 ⑫⑬⑭	A	
	生徒の自主的活動の機会を増やす。	定期戦、為桜祭、為桜オリンピック、踏破会等の学校行事を通して、成就感・達成感を体験させ、併せて学校やクラスの連帯感を養うと共に、学校生活の活性化を図る。 ⑤⑥	B	
		部活動への積極的な取り組みを促し、心身を鍛え、文武不岐の精神を養う。 ⑦⑧⑳	A	
	自尊感情を育み、周囲と円滑な生活を送る。 生徒が様々な役割や価値を自ら判断できるよう、振り返りを大切にする。	ホームルーム活動、学校行事等を通し、他者に対する寛容な姿勢を身に付けると共に、協調性を育む。 ⑤⑥⑨ ホームルーム活動の中核とし、キャリア・パスポートを利用して生徒が自己評価できる場面を組織的に働きかける。 ⑤⑨	A B	

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の能動的な進路選択を促すための各種支援を積極的に実施する。その目標を達成するための方策として、「光プロジェクト」を推進する。	「学びの基礎診断」(スタディサポート等)を活用して、各生徒の進路希望の動向や学習状況等の把握に努め、適切な指導・助言を行う。 ①③④	A	○光プロジェクトの内容は本校に定着しているため、今後も継続していくこと。 ○中等部と高等部で連携した取り組みを、少しずつ増やしていくこと。 ○保護者アンケートの「生徒が光プロジェクトに参加しているか」という項目の評価が常に低い(あることをわかっていない人も多いと思う)。充実した企画を数多く行っているため、もう少し広報活動に力を入れて周知を促していきたい。
		光プロジェクト等で実施する先輩講話、教育学部進学支援、教育学部系研究会等の実施を通じて、各生徒の職業観の育成を図るとともに、社会貢献を意識した進路決定を促す。 ④⑤⑭	A	
		「大学進学要覧」等の資料を活用して、卒業生の大学入試に関する数値的情報や経験談を在校生へと還元し、併せて在校生向けの「卒業生との懇談会」を企画する。また「進路通信」の発行やホームページの活用を通して、進路情報の発信に努める。 ④⑤⑥⑬	A	
		オンライン説明会やオンライン・オープンキャンパスへの参加を促すとともに、出前授業、進路講演会等を実施し、大学入試に関する早期の意識づけを図る。また、医学部に特化した講演会、医学セミナーなどを通して医学部進学希望者への支援を行い、また教育学部系進学研究会を通じて教職希望者に対する動機づけと支援を行う。 ②③④	A	
		大学入試の多様化に対応すべく、国公立大学の総合型選抜および学校推薦型選抜に向けた指導体制を整え、大学入学共通テストや新学習指導要領に関する研究・研鑽に努める。 ①②	A	
		職員進路検討会を実施し、生徒の進路希望や現況を職員間で共有することで、個々の生徒に対しより高い目標設定を促す。また、年度末に職員進路情報交換会を実施して、第3学年団の指導の成果および反省点を次年度以降へと継承する。 ①②④		
	学習指導・進路指導に関する研究を進め、指導の改善に努めることで、生徒の学力向上を図る。その一環として「光プロジェクト」の推進に努める。	学習館の適切な管理を通じて、生徒へより良い学習環境を提供する。同時に生徒の自学自習の習慣化を図る。 ③④ 平常課外や長期休業中課外、難関大学志望者向けの学習方法講演会を実施し、生徒の学習活動の発展・深化の契機とする。 ①③④ 英語の外部検定試験受験やスピーチコンテストなど、4技能の習得を意識した生徒の英語力向上を後押しするとともに、国際的な視野を持った生徒の育成を図る。 ②③④ 次期学習指導要領や高大接続改革の流れを見据えて、職員が進学指導研究会や各種セミナーに参加し、情報収集と指導力の向上に努める。得られた情報は、HR、集会、面談などあらゆる機会を捉えて、生徒及び保護者に還元する。 ①②④	A B B	
図 書	図書委員会活動の充実を図る。	生徒会の図書委員会活動を活発にし、学校外の行事などにより多く参加するよう企画し、実施する。 ①⑧	B	○コロナ禍により中止・オンライン開催となった図書委員の校外研修会に、次年度こそは参加すること。 ○中学校開設にあたり、ニーズに合わせて、中学生や探究活動に有用な蔵書・書架作りに努めること。
	図書館利用を促進する。	広報活動を充実させ、クラス・生徒の利用増加を図り、ビブリオバトルを実施する。 ⑤⑥⑬	A	
		図書館と蔵書(電子書籍含む)の活用率の向上を図る。 ①②③⑨	A	
		授業時や探究活動時の図書館の利用と活用拡大を各学年・各教科に働きかける。 ①③④	B	
		推薦入試対策や小論文対策等の推薦図書のコーナーを充実させる。 ②③④	A	
		生徒や教職員のニーズに応えられるよう、リクエスト用紙を活用する。 ②③④	A	
	図書館の環境美化に努める。	図書館内を、落ち着いて思索する空間として利用できるよう整え、心の教育の一助とする。 ⑨⑫	A	
保健環境	保健室の適切な運営に努めると共に、生徒の心身の健康維持を図り、健全な学校生活を送れるよう支援する。	健康診断、保健調査、献血活動協力を適確に実施する。 ⑤⑨⑪⑫	A	○老朽化している清掃用具の交換。 ○トイレ前、昇降口前のマット(赤)の交換を検討。
		保健室での傷病者の救急処置や休養指導を適切に実施する。 ⑫	A	
		専門家と連携し、性教育指導や心の教育を実施する。 ⑤⑨⑪⑫	A	
		生徒のインフルエンザ等の感染症の状況を迅速に把握し、適切な対策指導を行う。 ⑫	A	
		健康相談により、生徒への精神的なフォローをすると共に、いじめの早期発見に努める。 ⑪⑫	A	
		トイレ、手洗い場等の衛生状況を定期的にチェックすると共に、洗浄液の補充を行う。 ⑪⑫	A	
		学校薬剤師と連携し、教室等の学校環境衛生に配慮する。 ⑪⑫	B	

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健環境	学習環境の整備に努める。	清掃用具の調査・補充・管理に努め、清掃指導を徹底し、意識の改善に努める。 ⑤⑨⑪⑫	B	
		各教室設置の黒板消しクリーナーを週1回洗浄し、大掃除では床のワックス掛けを実施する。 ⑤	A	
	生徒の安全確保を確立する。	エアコンやファンの正しい使用法を徹底し、安全管理に努める。 ⑤⑨⑪⑫	A	
		1学年は春季、全学年は秋季に防災訓練を実施し、非常時の安全対策を行う。 ⑤⑨⑪⑫	A	
渉 外	P T A活動の充実を図る。	現在の組織を見直し、再編を進める。 ⑯	A	A
		保護者も楽しめるようなP T A活動を進め、広報活動を充実させる。 ⑯	B	
第1学年	高校生としての学習習慣を確立し、基礎力の定着及び向上と発展的な応用力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開すると共に、予習・復習以外にも授業に連動した課題を課し、家庭学習の習慣を確立させることで、授業を中心とした学習指導の充実を図る。 ①②	C	B
		学習記録表やポートフォリオを用いて、PDCAサイクルを確立させ、継続的な学習習慣の確立を促す。 ③④	C	
		考查以外にも、朝の小テスト、単元テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。成績不振者に対しては、追試や個別指導を実施して学力の底上げを行う。 ③④	B	
		長期休業中や土曜、平日放課後に課外等を実施し、弱点補強や応用力の強化に努める。 ③④	B	
	進路学習を充実させ、進路目標の早期設定を図る。	大学説明会、外部講師による講演会やホームルーム活動などにおいてキャリア・パスポートの活用を推進し、将来への見通しを踏まえた学問、学部・学科、職業選択を考えさせる。 ④⑤	C	B
		進路希望調査や学習状況・生活実態調査を実施し、個別面談を随時行う。生徒理解に努めると共に、学習や進路決定に対するモチベーションを高め、具体的な目標設定を促す。 ④⑤	B	
		定期試験や課題テスト、外部模擬試験などを活用し、生徒の適性、学力の把握に努める。 ③④	B	
		2年次の文理選択に向けて進路に関する教育を充実させ、生徒の進路希望、適性、学力を総合的に判断し、適切な指導を行う。 ④	A	
		難関大学及び医学部志望者数の増加を目指し、講話や体験学習を通じて生徒の意識向上に努める。 ③④	B	
	基本的生活習慣の確立を図る。	家庭との連絡を密にし、生徒への声かけや面談等を随時実施すると共に、遅刻、早退、欠席の防止に努め、安定した学校生活を送らせる。 ⑨⑩⑪⑬	B	B
		集会・HR等を通して規律を守ることの大切さを伝え、自律の意識と姿勢を養う。 ⑨⑩⑪⑫	B	
		面談を通じて生活面での生徒個々の悩みや不安を把握し、適切な指導に努める。 ⑯⑰⑱	A	
	豊かな心を育て、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	良好な人間関係の形成を支援し、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努める。 ⑯⑰⑱	A	B
		清掃活動を徹底させることで、環境を美しく保つ姿勢を養う。あわせて周囲に対する気配りや思いやりの心を育てる。 ⑫	B	
	文武不岐を実践させる。	各種行事、部活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性やリーダー性の育成を図る。また、行事に参加・成功させることで得られる自己肯定感や達成感を基に、クラスの連帯感を育む。 ⑤～⑧	C	C
	広報活動の推進と地域との連携を図る。	大学説明会・進路講演会・イングリッシュセミナーなどの学年行事を積極的にホームページに掲載することにより、「開かれた学校づくり」に努める。 ⑬	C	D
		小学校へのヤングティーチャーズ派遣事業を通して、生徒の社会貢献への意欲を高めると共に、本校と地域との連携を図る。 ⑭⑮	E	
		中学校訪問の際に、本校の大学への進路実績の提供を行うと共に、中学校からの意見・要望を把握するなど、中学校訪問を効果的に実施し、各中学校との連携を一層深める。 ⑮	C	
		P T Aとの連携を強化し、情報の公開に努める。 ⑯	B	

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第2学年	自主的な学習習慣を確立させて基礎学力の定着とより発展的な学力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開すると共に、予習・復習以外にも授業に連動した課題を課し、家庭学習の習慣を確立させることで、授業を中心とした学習指導の充実を図る。 ①②	A	B	○年度当初に設定した計画に基づいて、改良を図りながら学年全体で取り組むことができている。 ○保護者アンケートによると、「生徒は光プロジェクトに参加している」に対する回答がいつも低評価である。生徒は知らず知らずのうちにプログラムに参加しているのでこれについてもっとPRしてもよい。 ○今年度の調整日は、木6金6とも授業に変えて実施したが、学年の行事や面談などで、「あったらよかったのに」と感じる事が何度もあった。以前のように木6金6は残した形で調整を実施したい。
		Classi等を用いて、PDCAサイクルを確立させ、継続的な学習が展開できるよう指導する。とりわけ長期休業中の学習習慣を確立させることを重点的に支援する。 ②③④	B		
		定期考査に加えて、朝の小テスト、単元テスト等を実施することで、基礎学力の向上を図る。成績不振者に対しては、生徒個々の実情に応じて個別指導を行うことで、学力の底上げを図る。 ②③④	A		
		長期休業中や平日放課後に課外等を実施し、弱点の補強と応用力の強化に努める。 ②③④	B		
	進路決定に関する学習活動を充実させ、進路目標の早期設定を図る。	進路講話、出前授業、外部講師による講演などを通してキャリア・パスポートの活用を推進し、将来こうありたいという自分像を踏まえて学問、学部・学科、職業選択について考えさせると共に、進路実現に向けての具体的な行動を起こさせるようにする。 ③④	B	A	
		スタディーサポートを実施すると共に、個別面談を随時行う。生徒理解の深化に努めると共に、学習や進路決定に対するモチベーションを高め、具体的な目標設定を促す。 ③④	A		
		定期試験や課題テスト、外部模擬試験、適性検査などを活用し、生徒の適性、及び学力の把握に努める。 ②③④	A		
		生徒の進路希望・学習状況・学力などの分析会を定期的に行い、一人一人の生徒の情報を学年団で共有することを目指す。 ②③④	A		
		難関大学志望者数を増加させることを目指し、東大倶楽部の活動や、講話、体験学習、探究活動を通じて生徒の意識向上に努める。 ④	B		
	社会の一員としての規範意識を高め、規律ある生活習慣の確立を促すことで、自立した人間の育成に努める。	各家庭との連絡を密にすると共に、生徒への声かけや面談等を随時実施して、安定した学校生活を送らせる。皆勤者100名以上の達成を目指す。 ⑪	A	A	
		集会・HR、修学旅行などの行事等を通して、協調性や規律を守ることの大切さについて考えることを促し、自律的に行動する姿勢を養う。 ⑨⑩⑪⑬	B		
		面談期間等に個別面談を通じて生徒個々の実態を把握することで、適切な指導に努める。 ④⑨⑬⑭⑮	A		
		新聞に触れる機会を増やし、社会の一員として自分の意見を持つ意識を養う。 ⑭⑮	A		
	豊かな心を育て、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	良好な人間関係の形成を支援し、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努める。 ⑬⑭⑮	A	A	
		清掃活動の徹底、及び環境を美しく保とうとする姿勢を涵養し、あわせて周囲に対する気配りや思いやりの心を育てる。 ⑨⑫	B		
	文武不岐の実践を目指す。広報活動の推進と地域との連携強化に努める。	各種行事、部活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性やリーダー性の育成を図る。更に行事への参加を通じて得られる自己肯定感や達成感を共有することで、クラスの連帯感を育む。 ⑤⑥⑦⑧	A	B	
		学年の行事を積極的にホームページに掲載することで、「開かれた学校づくり」に努める。 ⑬	B		
		「学年通信」や学年PTAを通じて、学年の取り組みや進路に関する情報を積極的に保護者に提供することで、家庭との連携を図る。 ⑬	B		

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3学年	生徒一人一人の進路目標達成のため、進路指導・学習指導の充実に努める。	ホームルームにおけるキャリア教育を充実させ、生徒一人一人が適切な進路設計を行い、具体的な行動を起こせるように十分な情報提供を行う。③④	A	B	○学年全体で受験、進路実現に向けて取り組むことができていると思う。 ○進路検討会で新たに考えられたことがうまくデータ等で共有できたら良い。 ○アンケートの「光プロジェクトに参加している」という項目が、いつも低評価な感じがするので、光プロジェクトをもう少し宣伝しても良い。 ○HR時間と面談時間の確保のために行事等を見直す。
		個別面談を通して生徒の進路希望の実態を細かく把握する。さらに模試等を利用して学力傾向を多角的に分析し、学年会議、学力検討会、教科との連携を通して適切な指導につなげる。②③④	A		
		アクティブ・ラーニング等を導入することにより、生徒の意欲を引き出し、理解につながる「わかる授業」を心掛け、基礎学力の上に大学教育につながるような応用力を育てる。①	B		
		平常課外・東大倶楽部などの多様な学習指導、さらに個に応じたきめ細かな進路指導を実施することで、学力向上を図る。①③	A		
		生徒が常にPDCAサイクルを意識し、キャリア・パスポートを活用し、長期・短期の計画をたてて自主的に行動できるように、授業やホームルームを通して指導していく。③④⑤	B		
		国公立大学合格120名以上、難関国公立大学合格20名以上を目指す。そのために光プロジェクトを最大限利用し、生徒の高いモチベーションを維持する。③④⑤	B		
	健全な心身の育成と規律ある生活習慣の確立を図る。	清掃活動の徹底により、教室や学習館など学習環境の整備に努める。⑫	A	B	○生徒たちが自主的に何かをする機会が少なかったように思う。来年度以降カリキュラムの変更などもあるので、生徒たちが自主的に活動できるような提案をしていきたい。
		学校行事や部活動への積極的な参加を促し、強い精神力や協調性、自主自立の精神を育む等、健全な心身の育成を図る。⑥	B		
		家庭との連絡を密にし、生徒への声かけや面談等を随時行い、欠席、遅刻、早退の防止に努め、安定した学校生活の維持に努める。学年皆勤者100名以上を目指す。さらに3年間皆勤者70名以上を目指す。⑪	B		
		規範意識の高揚を図り、制服の正しい着用や礼儀正しい態度の育成を促す。また、校則違反者0名を目指す。⑩	B		
	いじめの未然防止及び早期発見・早期解消の確立に努める。	授業やホームルーム等での生徒の様子に注意をし、生徒のささいな変化を見逃さないように努める。⑬	A	A	
		悩みをもっている生徒については、一人の教員が対応するのではなく、学年全体で指導に当たることができるように学年会などで情報を共有する。⑬	A		
		インターネットやSNSを通じて行われるいじめやトラブルが起きないように、授業やホームルーム活動を通して、情報モラル教育を推進する。⑬	B		
	広報活動の推進と、保護者及び地域社会との連携を図る。	Classi、PTA活動、学校ホームページや学年通信など様々な手段を通して、学年の取り組みや生徒の状況などを保護者に発信し、家庭との連携に基づくより良い学年運営を目指す。⑬	A	A	

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない